

令和4年10月28日市長記者会見 会議録

- < 開催時間 > 14:00~
- < 会場 > 庁議室(市役所本館3階)
- < 会見案件 > ・かにシーズンに向けた福井の魅力発信
・新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行に対する備え
- < 出席者 > 市長、副市長、総務部長、新幹線プロモーション課長、おもてなし推進課長、
ワクチン接種推進課長、健康管理センター所長、保健企画課長

< 発表内容 >

【福井市長】

本日は、かにシーズンに向けた福井の魅力発信、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行に対する備えについてご説明させていただきます。

はじめに、かにシーズンに向けた福井の魅力発信についてご説明します。

まず、新幹線プロモーションポスター 第2弾発表についてです。2024年春の北陸新幹線福井開業に向けたプロモーションとして、古市 憲寿さんを主演とした第2弾のポスターを2種類制作しました。越前がにと古市さん、福いネ!くんがコラボしたデザインとなっており、「カニを食べると無口になる? おいしかったら黙ってられないはずですよね?」や「福井でいちばん偉いのは、カニ様? あー、そうですか…」と、古市さんらしい個性的なキャッチコピーを添えています。

このポスターを、11月6日の越前がに漁解禁のタイミングに合わせて、11月7日からJR大宮駅構内のデジタルサイネージ放映、11月21日からJR東京駅構内での掲示、11月25日に都内の新聞での全面広告など、首都圏に向け集中的に発信していきます。その他、県外での出向宣伝PRなど、各方面でも活用しますので、ぜひ多くの皆さまにご覧いただきたいと思っております。

次に、本市では、5月から東日本の新幹線沿線やその周辺自治体と、広報紙への観光情報の相互掲載を行っております。11月以降、さいたま市、宇都宮市、会津若松市、南魚沼市、群馬県みなかみ町の5つの市町の広報紙に、「越前がに」の記事を掲載しPRします。

また、外国人観光客へのプロモーションとして、今年12月19日から翌年1月14日までの約1か月間、フランス・パリにおいて、本市ゆかりの飲食店「越前そば 東郷」を会場として、インバウンド推進のためのキャンペーンを展開いたします。キャンペーンでは、9月に完成した英語・フランス語のインバウンド用パンフレットを活用します。これは、姉妹都市から赴任しているFCA(福井市国際文化交流大使)が手掛けたもので、外国人の目線から魅力的に映る福井の観光素材をふんだんに盛り込んだものとなっております。

また、市がフランス語で運用しているSNS(インスタグラム)をフォローしていただいたフランスの方には、鯉がデザインされた、こちらの扇子200本をプレゼントいたします。鯉は、海外での人気が高まっており、本市には「一乗谷朝倉氏遺跡」「養浩館庭園」など、鯉のいる観光地がございます。そうしたストーリー性を持ってノベルティを配布すること

で、日本、福井へ足を運びきっかけとしていただけることに期待しています。

期間中の12月21日(水)には、旅行代理店の訪日担当者やメディア関係者を集め、本市をはじめとした福井の魅力を発信する観光セミナーも開催します。越前おろしそばや日本酒も味わってもらいながら、効果的なPRを実施します。

今月からは全国旅行支援も始まり、来月6日には越前がに漁が解禁され、福井が最も観光客から注目されるシーズンを迎えます。この機会に福井にお越しになられる観光客に充分満足してお帰りいただくことができるよう、本年度も「観光おもてなし市民運動」に取り組みます。

昨年開設した本市の観光ポータルサイト「福いろ」では、アクセス数が大幅に伸びています。今年度上半期のアクセス数は昨年度の7倍以上で、特に、東京からの伸びが顕著です。これは、ふくい桜まつりなどの情報発信、宿泊割引などの新型コロナ対策事業、「福いいネ!」を活用した各種プロモーションなどの効果のほか、観光おもてなし市民運動を継続してきたことも要因の一つではないかと思っております。

「福井はいいネ」「また来たいネ」と思ってもらえるよう、事業者の皆さん、市民の皆さんと一体となって取組を進め、新幹線福井開業後にもつなげていきたいと考えています。

次に、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行に対する備えについてです。

今年のインフルエンザについては、新型コロナ感染症との同時流行も懸念されており、日本感染症学会は積極的なインフルエンザワクチンの接種を推奨しています。

インフルエンザワクチンは、65歳以上の方などが、予防接種法に基づく定期予防接種の対象者となっています。そのため、本市では、9月26日に対象者77,471人へ、予防接種通知ハガキを発送しました。

定期予防接種の対象の方は、ハガキを持参すれば2,000円で接種ができます。対象でない方は、自費にて接種ができます。接種を希望される場合は、医療機関にご相談のうえ、早めの接種をお願いします。

一方、新型コロナウイルス感染症につきましては、一時の感染状況と比較すると落ち着きは見えるものの、いまだ収束とは言えない状況が続いています。本市としては、再度の感染拡大を抑制するため、引き続き新型コロナワクチン接種を推進してまいります。

現在は、オミクロン株対応ワクチンの接種を進めており、新型コロナワクチン接種は新たな段階に入っています。

先月25日には、まず優先接種対象者へのオミクロン株対応ワクチンの接種を開始し、その後12歳から59歳の方への接種についても、国が示した10月半ばでの開始を前倒しし、10月6日から接種を開始したところです。

接種対象の方には、順次接種券を送付していますので、お手元に接種券が届きましたら、できるだけ早い時期での接種をお願いします。

このような中、国はこれまで5か月としていた接種間隔を3か月に短縮することを決定しました。これに伴い本市では、前回接種から3か月が経過した方に対し、今月26日から接種券の発送を開始したところです。

また、10月5日に薬事承認された「オミクロン株 BA4-5 対応ワクチン」について接種準備が整ったため、明日29日から、個別接種、集団接種とも、使用ワクチンを BA4-5 対応ワクチンに切り替えて接種を推進してまいります。

そして、11月には、毎週金曜日の夜、午後7時から9時に「ワクチンシナイト」を実施します。前回より、受付時間を30分延長して実施しますので、働く世代も含め幅広い年代の方に接種を検討していただきたいと思っております。

さらに、11月9日からは、生後6か月から4歳までを対象とした乳幼児接種を開始します。接種券については、今月26日に発送を済ませています。

なお、これまで、新型コロナワクチンを接種する場合は、その他のワクチン接種と 2 週間以上の間隔を空ける必要がありました。この 7 月からは、インフルエンザワクチンに限り、間隔を空けることなく、同日でも接種が可能となりました。新型コロナワクチン接種の予約は市が行っていますが、インフルエンザワクチンは、予約、接種ともに各医療機関での対応になります。同時接種を希望される場合は、医療機関に確認のうえ予約をお願いします。

市民の皆様には、新型コロナウイルスとインフルエンザの同時流行に備えるためにも、両方のワクチンを接種することを、ぜひ検討していただきたいと思っております。また、インフルエンザの予防、新型コロナウイルス感染拡大を防ぐため、引き続き、3密の回避、特に会話時のマスク着用、手洗い、換気など、日頃の感染対策の徹底をお願いします。私からは以上です。

< 質 疑 応 答 >

【読売新聞】

ワクチンに関して一つお尋ねしたいと思っております。

今後市の集団接種会場などで、コロナウイルス用のワクチンと、インフルエンザのワクチン両方を、例えば同会場で打てるようにすると、その接種希望者が、同じタイミングで同じ場所ですることができるという利点があると思っております。一方でインフルエンザのワクチン接種というのは民間の診療所にとって貴重な収入となる機会でもあると思っておりますが、それらも踏まえ、今後、希望者が接種しやすい環境を整える考えはありますか。

【福井市長】

先ほど申し上げたように、金曜日の夜に、「ワクチンシナイト」ということで、仕事が終わってから打ちに行けるよう、工夫を凝らしながら、前回同様に、今回も進めたいと思っております。

コロナのワクチン接種の予約は、市で所管しており、インフルエンザについては、予約も接種も、医療機関でやっていますので、交差させると、誤ってワクチンを打ってしまうというケースが起りやすくなると思っております。そのため、注意をしながら考えていきたいです。

【福井新聞】

先ほど、観光おもてなし市民運動の件で、上半期、福いろ（福井市観光公式サイト）へのアクセスが増えており、東京からの注目が非常に集まっているとご紹介いただきました。

改めて新幹線開業に向けて、今後福井のPRというのは非常に大事になっていく時期です。その現状への受けとめと、今後さらにどういうPRが必要だと考えているか教えていただきたいです。

【福井市長】

先ほども申し上げたように、インバウンド関係が低調であるようです。

インバウンド関係にもう少し手をつけていきたいということで、フランスの越前そば東郷を活用して広めるなど、少しずつPRの機会を増やし、前回お見せした英語とフランス語のインバウンド用パンフレットなども十分に活用してやっていきたいと思っております。

こういう鯉の扇子などをお渡しすることで、PR 機会の情報のやりとりをできるようにしていくなど、地道に継続的にやっていくことが大事な部分だと思っております。

【福井新聞】

関連して、北陸新幹線福井開業まで1年半を切っているという段階で、もう来年度の予算の策定に向けて、より必要な勝負のときだと思えます。どう展開していくかという大事な年になっていくと思えますが、これまでの福井のPRについて現状の受け止めと来年度に向けての抱負も含めて伺いたいです。

【福井市長】

どう展開していくかはコロナの関係があり、難しい面があります。人の動きが、非常に活発に行われるときと停滞してしまうというときがあり、無理をすると、今度はコロナが広がってしまうこともあるので、しっかりと対策はしないとイケないと思っています。PR活動はまだできない部分があり、これから予算編成など行うが、コロナの状況の中では最大のPRの大体6、7割で展開していくことになるかと認識しています。

【日経新聞】

今回のこのポスターは、直接今シーズンの誘客というよりも、北陸新幹線福井開業に向けた知名度向上という位置付けて捉えればいいのでしょうか。

【福井市長】

そう思っていたきたい。

【日経新聞】

来月からカニのシーズン始まるわけだが、今シーズンに関して、福井市での観光誘客など施策として行うことはあるのでしょうか。

【福井市長】

今、検討中です。先ほども伝えたがコロナ関係があるので、いつからスタートさせようかとか悩んで足踏みをしている事業もあります。今、12月議会へ向けて、補正等の検討を踏まえ、もう少し前へ進められるようにしたいと思っています。

【日経新聞】

ポスターについて、市長の直接の感想を教えてください。

【福井市長】

なかなかポスターや映像などは、評価が難しいところがありますが、古市さん自身がこのキャッチコピーを考えてきてくれて、それを積極的に使用してもらえたので、面白い出来栄えだと思えます。

【福井テレビ】

ポスターに関して、第1弾に続き再び古市さんを起用したことについて、改めて、期待や狙いなどを教えてください。

【福井市長】

古市さんは、ご存知のように、社会学者という位置付けもありますし、テレビなどにも結構出演されていて、顔も売れているということで、彼に色々してもらおうと考えました。

また、自ら色々発信する言葉を考えてきていただき、そのようなやりとりが前回のポスターづくりの時にありましたので、そういうものを活用させていただきながら、第2弾も彼でいきたいということをお願いをしました。

【中日新聞】

観光おもてなしの部分についてお伺いします。新幹線まであと1年というところで、この市民運動は平成26年度から行っているということですが、何か特に新幹線に向けて、今年や来年にかけて、変えていく部分など、強化する部分はありますか。

【福井市長】

おもてなしの現在の形は、平成30年に、福井国体があり、その国体に向けて、しっかりとおもてなしができるようにならないといけないということで、運動として盛り上げていこうと取り組んで参りました。国体が終わり、若干「中だるみ」という言葉が妥当かどうかわかりませんが、ちょっと気が抜けた部分もあるような感じもしておりました。しかし、新幹線開業に向けて、しっかりと対応をとらなければいけないということで、改めておもてなし運動に力を入れる必要があると思っています。当時国体を開催するとき、岩手国体へ視察に行きましたが、歩行者が横断歩道を渡るときに、しっかりと運転手の方が止まってくれる姿を見て、福井でもそれを運動としてしっかり根付かせないといけないということ、当時声を大にして訴えてきました。おかげさまで今はだいぶ良くなったと思っています。しかし、ちょっと気を抜くと元に戻ってしまうこともあるので、しっかりとおもてなし市民運動を行い、もう1回気を引き締めよう考えているところです。

【中日新聞】

観光の案内役とかボランティアとかだけではなく、市全体の市民の行動も含めて、気を引き締めていくということでしょうか。

【福井市長】

おもてなし市民運動という形で、これまでも取り組んできております。例えば、駅前の恐竜をバックに、カメラを構えている人がいた場合、カメラを構えている人も一緒に入って写真を撮りたい時もあると思います。

そのような時に、「シャッター切りましょうか」と声をかけてもらえるのは、旅行に来ている方からすると、嬉しい出来事なのかなと思うんです。

そのようなことを、市民のみなさんができるようになっていただければなと思っています。

【中日新聞】

もう1点だけよろしいでしょうか。

インバウンドに関して、今回フランスのパリでプロモーション活動されるということですが、今後、コロナ影響なども少しずつ弱まってくると、どんどん外国人の方いらっしやると思うんですが、フランス以外でもこのような活動をされていくのか、今後の展望について教えてください。

【福井市長】

福井市が知っている海外でのプロモーションの場所が、すべての国に対してあるわけではありません。

たまたま今、フランスが日本に対して非常に好意的に受け取ってくれており、福井市としてもクレア（自治体国際化協会）を通じて、フランスに職員を派遣しております。

そのようなことが重なったため、フランスでプロモーション活動を行うこととなりました。他の国でも、そのような要素が

重なれば、うまく活用しながらプロモーションしていきたいと思っております。海外でプロモーション活動をしたいと思っ
ていても、なかなか思い通りにいかない部分があると思いますが、今後、姉妹友好都市であるアメリカのニューブラン
ズウィック市や、フラトン市、中国の杭州市、韓国の水原市などとうまく連携を取りながら、プロモーションしていきたい
とは考えています。

【福井新聞】

越前がにのシーズンに関して、間もなく2年後に新幹線開業も控えていて、すごく大切なかにのシーズンになると思うん
ですけれども、今回のこのシーズンへの想いや抱負があればお聞かせください。

【福井市長】

福井というと、カニのイメージは結構強いのかなと思っています。

この一番の売りであるカニではない、他のもので勝負をしようとしても、おそらく難しいんだろうと思っています。

そのため、一番の売れ筋のカニを宣伝していくことは大事だと考えています。

これまでは、カニの漁獲量がぐんと落ちてきており、地元においても、食する機会が非常に少なかったのですが、今年は
少し漁獲量が多いという予測も出ていますので、食する機会が増えるのではないかと期待しています。